



‘Proferamus jubilo’ 2019 第3回

2019年 8月 24日(土) 13:00より 18歳以下の方対象 (どなたでも聴講できます。)
公開コンサート(参加型)、レクチャーコンサートのみのご参加も可能です。

プロフェラムス・ユビロはラテン語の聖歌を通して西洋音楽の源流に少し触れてみようというものです。
ごく一部ですが、ミサや詩編の一節を小さなバロックオーケストラと共に歌ってみましょう。

- ☆ ラテン語は音節単位 (これはフランス語やイタリア語も同じです。) 基本的には一つの音節が一つの音符に対応します。
- ☆ ラテン語のアクセントは単語の後ろから2音節目か、あるいは3音節目に置かれます。
- ☆ 単語の頭ははっきりと始めましょう。文の頭はもつとはっきりと始めましょう。

場所 聖グレゴリオの家 聖堂／ロビー (ロビーに受付を設けます。)
宗教施設としての注意点がございます。これについては当日連絡します。

募集人数 20人(合唱／器楽) 18歳以下対象 (ラテン語を勉強したことが無い方対象)
参加費 ご一家で2000円 (ご両親、ご家族の聴講を含みます。) 参加当日お支払いください。
聴講での参加 1000円 公開コンサート(参加型)とレクチャーコンサートのみのご参加 1000円
(すべて聖グレゴリオの家賛助会へ寄付されます。) 自由献金あり

ピッチは a=415Hz とします。

☆☆☆ 事前に八王子にてオーケストラの練習をします。ご都合が合えばご参加下さい。(無料) ☆☆☆

当日のスケジュール (一部変更になる場合があります。)



13:00 ガイダンス 聖堂

13:10 ラテン語入門／聖歌入門 (西脇純先生)

14:45 合唱練習 Credoと Dixit dominus(いづれもごく一部)を歌ってみましょう。

15:45 休憩 (施設見学／オーケストラ準備)



16:00 公開コンサート (参加型) 聖堂

上記 Credo と Dixit dominus の合唱練習を行いながら進めます。

コンサートへお越しくくださったお客様といっしょに、お席のまま歌ってみましょう。

最後に宗教曲以外も含めて全体を演奏します。



ハンガリーのエステルハージ
宮殿にて

レクチャーコンサート ロビー

17:00 Church-inspired Piano Music Lecture and piano : Dr. Albert Mühlböc
教会に触発された(息を吹き込まれた)ピアノ音楽
(英語)通訳はありませんが、適宜質問を受け付けたいと思います。

Sofia Gubaidulina (1931-)
Sonata (1965) : Allegro - Adagio - Allegretto

Sergei Rachmaninoff (1873- 1943)
Sonata No. 2 : Allegro agitato - Non allegro—Lento - Allegro molto

レクチャー内容
Rachmaninoff and the Russian-orthodox Church music,
ラフマニノフとロシア正教の音楽
About Sofia Gubaidulina and her relationship to the Catholic church
ソフィア・グバイドリーナとカトリック教会との関係について

18:30 終了 (掃除片付け、忘れ物チェック)

保護者の皆様に受付、会計、お客様案内等お願いいたく存じます。どうぞご協力下さい。
一部のパートを大人が補います。それでも不足するパートがあるかと思ひます。どうぞご了承ください。
(なお、会場設営、お客様案内、後片付けも皆でしましょう。)

アルベルト・ミュールベック (Dr. Albert Mühlböck)

オーストリア生まれのピアニスト。アントン・ブルックナー音楽大学(オーストリア・リンツ)、ウィーン国立音楽大学卒業、ピアノをアレクサンダー・イェナー、ルードヴィヒ・ホフマンに師事。シンシナティー大学(アメリカ合衆国)にてユージン・プリドノフに師事、音楽芸術博士号を取得する。イタリア・マルサラ国際ピアノコンクール、フランス・プレスト国際ピアノコンクールの他、オーストリア、アメリカ等のピアノコンクールに入賞。シューベルトやリスト、ラフマニノフの作品を中心としたCDやラジオ録音を行う。クラヴィコード等の鍵盤楽器の演奏にも力を注ぐ一方、ブーレーズなどの現代音楽の演奏にも取り組んでいる。毎年、ドイツ・シュトゥットガルト国際音楽祭におけるマスタークラス講師を務めている。現在、台湾嘉義大学等で後進の指導に当たる。

公開コンサート(参加型) 演奏予定曲

オルガン独奏 中澤未帆

Antonio de Cabezón (1510–1566) Hymnos のなかから 1 曲

F. Correa de Arauxo (1584–1654) Tiento de medio registro de dos tiples de segund tono N.53

宗教曲 この2曲の歌詞を配りますので、コンサートにご参加の方といっしょに歌ってみましょう。

Marc Antoine Charpentier Missa Assumpta Est Maria より credo の冒頭部分

Antonio Vivaldi “Dixit Dominus” psalm 109 RV 807 の冒頭部分

その他 (非宗教曲)

Antonio Vivaldi Concerto in La minore per violoncello, archi e cembalo RV420

Nicola Porpora (1686-1768) Violoncello sonata violoncello 中嶋寄恵 clavicembalo Mr. Albert Mühlböck

申し込み、お問合せ

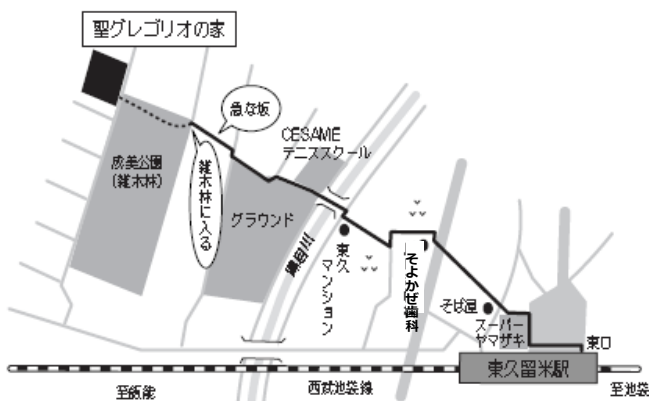
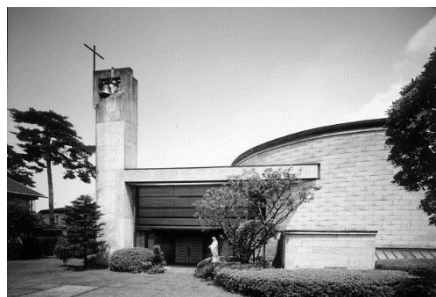
聖グレゴリオの家事務所 tel.042-474-8915 fax.042-474-8832

<http://www.st-gregorio.or.jp>

山野辺暁彦(企画立案) 〒192-0914 八王子市片倉町 888-44 tel.042-635-3784

rpbjk640@ybb.ne.jp

お名前、学年、ご住所等連絡先を添えて7月15日ごろまでにお申し込みください。弦楽器でご参加の方は楽器名もお知らせください。事前に資料等をお送りします。ただし、チェンバロでご参加の方はなるべく早くお申し込みください。



池袋より西武池袋線「東久留米」駅下車
東久留米駅「東口」より徒歩10分またはタクシー5分
〒203-0004 東久留米市氷川台2-7-12

聖グレゴリオの家は、1979年9月に独立宗教法人として故グレオン・ゴールドマン神父(フランシスコ会)によって設立され、祈り、研究、教育という3本の柱から成り立っています。その目的は、祈り、典礼を祝いながら、教会音楽の研究、保存と普及、教育を行うことにあります。

聖グレゴリオの家賛助会

故グレオン・ゴールドマン神父によって創設された当研究所は、神父の母国ドイツや諸外国からの物心両面の支援に頼って参りました。しかしながらグレオン神父の帰天と援助をして下さった方の高齢化、世代交代に伴い、その支援は必然的に細りつつあります。海外の支援に頼るのではなく日本社会の中で聖グレゴリオの家の活動を支えていくために賛助会は2009年に発足しました。